

高岡市では、2006年4月から市内の小・中・養護学校全40校で、新しい必修教科「ものづくり・デザイン科」がスタートした。

国の構造改革特別区域計画「高岡市ものづくり・人材育成特区」の認定を受けて、銅器・漆器と地場産品などを、技術者や専門家の指導を受けてながらつくる体験学習を中心の授業を行っている。

題材は、鎌物の小物やネームプレート、青貝塗の文鎮やオルゴール箱など。美術館での学習や工場見学などをして、実習は高岡地場産業センター内の鎌物・漆器体験工房などを活用している。

二塚小学校では、6年生が青貝塗のペーパーウェイトづくりを体験。戸出東部小学校では、5年生が北辰工業所を訪ね、砂型铸造でキーホルダーづくりに取り組んだ。

両校ともデザイン・工芸センター職員



貝の切り方を教わる二塚小学校6年生の児童たち(右)。砂型铸造の説明を聞く戸出東部小学校5年生の児童たち(下)。



「いきいき富山館」(東京交通会館地下1階)の情報館で開催された「メイドイン高岡」。



「問」高岡商工会議所
TEL 0766-235000

埼玉県の造形作家がつくった4分の1の原型をもとに、伝統工芸高岡器振興協同組合が製作。実寸の原型製作では、藤子プロの入念な監修を受け、随所に銅器の技術を生かして完成した。

千代田区有楽町にある富山県のアンテナショップ「いきいき富山館」で、1月18日から30日まで、「メイドイン高岡」ものづくりのまちの逸品「」が開催された。

「いきいき富山館」は、12月にリニューアルオープン。市町村とのタイアップ企画第1弾として、高岡市の企画展(市工業振興課、デザイン・工芸センター企画)を実施した。時計やワインオープナーなど高岡から生まれた新しいプロダクトやエエエのマテリアルプレートなど、約100点を展示。入場者の関心を集めていた。



2006年10月11日、高岡おとぎの森公園で、ドラえもんのキャラクター像の除幕式が行われた。これは、高岡商工会議所が創立110周年記念事業として企画したもの。FRP(繊維強化プラスチック)製で、ほぼ等身大。原作に忠実にカラーリングされている。

report 2

ものづくり・デザイン科で 伝統工芸を体験



児童の作品

この教科により、子どもたちがものをつくる喜びや地域の伝統文化への理解を深めるとともに、技術の継承や産業振興などにつながることも期待される。

千代田区有楽町にある富山県のアンテナショップ「いきいき富山館」で、1月18日から30日まで、「メイドイン高岡」ものづくりのまちの逸品「」が開催された。

「いきいき富山館」は、12月にリニューアルオープン。市町村とのタイアップ企画第1弾として、高岡市の企画展(市工業振興課、デザイン・工芸センター企画)を実施した。時計やワインオープナーなど高岡から生まれた新しいプロダクトやエエエのマテリアルプレートなど、約100点を展示。入場者の関心を集めていた。

report 3

「メイドイン高岡」 東京で発信

おとぎの森に ドラえもん登場

高岡市デザイン・工芸センターが支援し、地場の問屋や職人、デザイナーなどでつくる「有限会社ハイヒル」が製造・販売している「マテリアルプレート」が、「新日本様式」協議会(理事長／中村邦夫・松下電器産業会長)が選ぶ「新日本様式」100選に選ばれた。



マテリアルプレートは、高岡の職人の優れた技術をアピールすることを目指して2002年に研究を開始。金属、漆、ガラスなどの新しい技法や表現方法をデザインし、建築業者やインテリアデザイナー向けの表面処理見本の商品化に成功した。全部で190種類(金属40種、漆140種、ガラス10種)で構成されており、ホテルやマンションの内装材、インテリア小物に使用されるなど、伝統技術を現代の生活空間に合う素材としてよみがえらせた点が高く評価された。

「新日本様式」100選は、世界に通用する新しい日本ブランドの定着を目指して、今回初めて選定された。選定商品は「Jマーク」を付けて販売できる。

〔問〕有限会社ハイヒル TEL.0766-21-1858
(「新日本様式」についてはP21をご参照ください。)

report 1

高岡発ブランド「HiHill」が、「新日本様式」100選に選定。



特集 I
20回記念 工芸都市高岡クラフトコンペ
デザイン工芸都市高岡の20年と今 5

新クラフト産業・デザイン育成事業
高岡漆器の新ブランド「うるおし」 11

TAKUMIと道具
大澤光民(鎌金) 15

特集 II
地方がつくるJAPANスタイル 17

LIVE TAKAOKA
クラフトマンズ ギャザリング 23

FRONT LINE 1
ギャラリー高岡 10

第32回デザインセミナー
「新日本様式」とは? 21

高岡市伝統工芸産業技術者養成スクール 22

技伝承 25

Do!工芸体験実習
ガラスのトンボ玉で小物をつくる 26

地の味には、地の器
高岡の漆器×かぶら寿司 26

DETAIL OF TAKAOKA
国宝高岡山瑞龍寺 27

〔表紙〕「溜塗絵箱」 デザイン・蒔絵／小杉かん子
(詳細はP11~14に掲載)

〈写真提供・取材協力〉(50音順・敬称略)
朝日清
大澤光民
カギロイ
黒田昌吾
瑞龍寺
相互企画印刷株式会社
大和高岡店
高岡金属意匠審議会
高岡工作連盟
高岡市教育委員会学校教育課
高岡市教育委員会文化財課
高岡市商業観光課
高岡漆器株式会社
高岡市美術館
高岡商工会議所
株式会社高田製作所
株式会社竹中製作所
伝統工芸高岡漆器協同組合
財団法人伝統的工芸品産業振興協会
社団法人富山県デザイン協会
鳥田宗吾
株式会社ユーズインターナショナル
株式会社能作
有限会社ハイヒル
有限会社北辰工業所

report
9

平成18年度 全国伝統的工芸品公募展で、内島正雄氏、鳥田宗吾氏の作品が入賞

東京都豊島区の全国伝統的工芸品センターで行われた「平成18年度全国伝統的工芸品公募展」(財団法人伝統的工芸品産業振興協会主催)の審査会で、高岡市の作家2名が上位に入賞した。

この公募展は、「これからのからしへ」をテーマに、伝統の技と材料を活かしつつ、美しさや手触り、使い勝手などにも充分配慮した魅力ある作品を公募し、伝統工芸品を使う現代の暮らしを提案するものとなっている。

内島正雄氏が出品した「取皿付おもてなしセット」は、氏が追求し続けている朱の器が一段と完成度を高め、(財)

伝統的工芸品産業振興協会会長賞を受賞した。

鳥田宗吾氏の「金銀布目象嵌花器」は、モダンなフォルムに金と銀の布目象嵌を施した斬新な花器で、日本伝統工芸士会会長賞を受賞している。

[問] (財)伝統的工芸品産業振興協会 TEL.03-5954-6033



(財)伝統的工芸品産業振興協会会長賞
内島正雄「取皿付おもてなしセット」



日本伝統工芸士会会長賞
鳥田宗吾「金銀布目象嵌花器」

report
10

東京と高岡で、伝統工芸の匠の技をアピール

2006年9月7日から19日まで、東京都豊島区にある全国伝統的工芸品センターにおいて、「第6回高岡の伝統工芸品展」が開催され、高岡銅器・漆器157点が展示された。同センターは、伝統的工芸品の良さを訴求し、作り手及び使い手の交流の場となることを目指している。

会期中には、高岡漆器の木彫や螺鈿、高岡銅器の彫金や仕上げの制作実演も行われ、来場者の注目を集めていた。

また、11月3日から12日まで高岡市美術館において、「高岡の巧みたちー伝統の技と美ー」が開催された。これは、工芸都市高岡クラフトコンペ20回記念事業関連企画とし

て行われたもので、人間国宝の大澤光民氏の鋳ぐるみ銅花器をはじめ、高岡の伝統工芸士、高岡市伝統工芸品技術保持者の作品74点が一堂に展示され、来館者は匠の技が生み出す造形美に魅了されていた。

[問] 高岡市デザイン・工芸センター TEL.0766-62-0520

report
11

祭屋台等製作修理技術者会の保存技術者に4名が登録

高岡市では、国の重要文化財である高岡御車山をはじめ市内外の山車や祭屋台を修復できる人材の育成を目指し、高岡市文化財(祭屋台等)保存修理技術研究会を設立し、高岡御車山保存会を通じて新たに4名の候補者を祭屋台等製作修理技術者会に推薦し、登録された。

祭屋台等製作修理技術者会とは、全国山・鉾・屋台保存連合会の部会として、祭屋台等の製作修理に熟練した技術者を中心に、技術の総合的な継承を目的に結成されたもの。登録された4名は、漆・彫刻関係の木津繁治氏、内島正雄氏、金工関係の鳥田稔弘氏、安川保憲氏。この

登録で、地元高岡の技術での修復が可能となった。

平成19年度には、二番町の御車山車輪を修復する予定となっている。

[問] 高岡市教育委員会文化財課 TEL.0766-20-1453



登録で、地元高岡の技術での修復が可能となっ

report
5

50周年記念にCD-ROM制作



高岡で生まれた金属工芸品の意匠や原型を産業財産権として位置づけ、产地として意匠権の保護や強化に努めてきた高岡金属意匠審議会。同会の設立50周年を記念して、平成18年11月、「高岡金属意匠審議会設立50周年記念CD-ROM」を作成した。

昭和30年代から現代に至る高岡やものづくりを中心とした出来事とともに、高岡銅器のデザインの変遷を振り返ることができる。また、現在の登録商品が容易に検索できるなど、高岡銅器産業の発展のために大いに活用できるアーカイブとなっており、高岡市内の高岡銅器事業所や関係機関に配布された。

[問] 高岡金属意匠審議会事務局
TEL 0766-62-0520



[問] (財)伝統的工芸品産業振興協会 TEL.03-5954-6033

report
6

産×学でJAPANブランド

地域の技術を生かし、世界ブランドをつくるうとする中小企業庁の「JAPANブランド育成支援事業」に、高岡銅器・漆器のプロジェクトが取り組んでいる。

同支援事業は、各地の商工会議所が事務局となって進められるが、高岡では富山大学芸術文化学部のトータルプロデュースのもと、产学連携で事業を実施する計画を取りまとめた。

「金属、漆の素材及びその製造技術・技能を持つ」職人集団「ブランディングのキー・コンセプト」と、商品開発支援ではなく、伝統産業振興の新しいビジネスモデルを策定するという。

主な事業展開としては、高岡の素材を基本とした新素材のブランディング、国内外のクリエーターとともに学び、経験を積む。工作連盟は単なる商品開発ではなく、地元のクリエーターとともに学び、経験を積む。

主な事業展開としては、高岡の素材を基本とした新素材のブランディング、国内外のクリエーターとともに学び、経験を積む。工作連盟は単なる商品開発ではなく、地元のクリエーターとともに学び、経験を積む。

[問] 高岡市デザイン・工芸センター内

TEL 0766-62-0520



[問] 高岡銅器協同組合内「高岡工作連盟」
TEL 0766-23-8210

高岡銅器の職人、メーカー、問屋などで結成された「高岡工作連盟」が2年目を迎える。これまでのプロジェクトを継続しながら新しい商品開発に取り組んでいる。

仏具グループは、新様式の仏具の開發をテーマに検討を重ね、この春には商品化の予定だ。

花器グループは、従来の型の中から、今に通用するフォルムを抽出。その中から若手の感覚で「デザインを」ブラッシュアップしている。

主な事業展開としては、高岡の素材を基本とした新素材のブランディング、国内外のクリエーターとともに学び、経験を積む。工作連盟は単なる商品開発ではなく、地元のクリエーターとともに学び、経験を積む。

主な事業展開としては、高岡の素材を基本とした新素材のブランディング、国内外のクリエーターとともに学び、経験を積む。工作連盟は単なる商品開発ではなく、地元のクリエーターとともに学び、経験を積む。

report
7

高岡工作連盟の次のステップ

report
8

IMA YOUNGの和をテーマに



第46回富山県デザイン展では、日本の伝統様式が注目される時代傾向のなかで、「IMA YOUNGの和」をテーマにワークショップを行った。これは、参加学生16名が県内企業7社とチームを構成し、企業の特質・技術等を生かして「IMA YOUNGの和」作品を共同制作するというもの。

これに先立ち、8月5日に、伊東順二氏(富山大学芸術文化学部教授)の公開講座が開催され、約60名が参加。講座終了後、約2ヶ月にわたって作品制作に取り組み、10月1日、富山国際会議場にてプレゼンテーションを行った。どのチームもそれぞれに学生らしい新鮮な視点での「IMA YOUNGの和」をつくりだしていた。

IMA YOUNGの和をテーマにした展示会の写真。

IMA YOUNGの和をテーマにした展示会の写真。